

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

| | |
|-------------------|-------------------|
| 平成 29 年 10 月 21 日 | |
| 所属部局・職 | 野生動物研究センター・博士課程学生 |
| 氏名 | 松島 慶 |

| |
|--|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| インドネシア、ボゴール及びウジュンクロン国立公園 |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| 先端拠点形成事業ワークショップへの参加 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 平成 29 年 10 月 15 日 ~ 平成 29 年 10 月 22 日 (8 日間) |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| ボゴール農科大学講師、Bambang 博士 |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| <p>日本学術振興会 研究拠点形成事業 A. 先端拠点形成型「大型動物研究を軸とする熱帯生物多様性保全研究の国際拠点 (CETBio)」が主催するワークショップに参加した。本ワークショップは、年一回連携拠点の各国のいずれかで開催され、今回は、本年から新拠点として加わったインドネシアでの開催となった。ワークショップは、ボゴール農科大学にて2日間にわたって開催され、その後 Ujung Kulon 国立公園に移動し、エクスカーションを行った。</p> <p>ワークショップでは、ブラジル、マレーシア、インド、中国の分担者による発表を中心に、フィールドミュージアム構想、飼育下動物と野生動物、ヒトと野生動物の衝突といったテーマについて議論が行われ、科学者がいかに野生動物の保全に関わっていくべきかについて考える良い機会となった。</p> <p>また、私を含めた参加学生やボゴール農科大学の学生によるポスター発表もあり、普段交流できない国の学生と議論を交わす良い機会となった。彼らは主に自国の動物種を対象とした研究を行っており、インドネシアの動物相について考える良いきっかけにもなった。</p> <p>続けて行われたエクスカーションでは、ボゴールから車で8時間、更にボートで4時間ほど行った Ujung Kulon 国立公園に訪れた。訪問中は Peucang 島に滞在し、Peucang 島ほか、Ciadon 地区と TamanJaya 地区を訪れた。Peucang 島及び Ciadon 地区はよく似た1次林の植生を持つものの、Peucang 島は約150年前に起こった津波の影響を強く受けている。そのため、Ciadon 地区に比べて、開けた植生になっていたのが印象的だった。その一方で、残された木々は人の手がほとんど入っておらず、巨大な樹木となっており、何本もの幼木がからまって成長した複雑な形は大変面白いものだった。</p> <p>TamanJaya 地区には大変希少な種であるジャワサイが生息していることが知られており、100頭を下回るその頭数を守るためにチームが結成され、様々な方面から保全活動が行われている。エクスカーションではあまり時間が無かったため、カメラトラップにて姿が確認された場所と、足跡を見ることしか叶わなかった。</p> <p>エクスカーション後、最後の夕食時にミーティングが行われ、今後の本事業にむけての総括が行われた。そこでは、5年間にわたって継続が予定されている本事業が、前事業から新しく何をやる必要があるのかという点と、エクスカーションで見た、インドネシアの保全の現場についてという点という2つのテーマで意見が交わされた。各国の分担者はそれぞれ本国において保全活動に関わっており、研究だけでなく、保全活動においても多国間で協力することの重要性を感じることができた。</p> <p>普段自身が研究する上ではあまり調査国・調査地以外のメンバーと交流することができないが、今回はインドネシアの研究者と交流したり、インドネシアの調査地を見るという貴重な経験をすることができた。</p> |

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ワークショップの様子



Ujung Kulon 国立公園、野生のバンテンが人工のサバンナに暮らす



宿舎の近くに飛んできたサイチョウ、複数の芽が複雑に絡み合ったキアラの木

6. その他 (特記事項など)

本出張およびワークショップの開催は PWS ほか CET-Bio の支援を受けて行われました。